

科目名

倫理学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

「人間って本当にいいものかしら」という言葉が、児童文学作品の中にある。青年期の学生が社会有用の人材として、本物の大人、社会人になるためには、人間とは何かについて学びあい、より良く生きることについて考える習慣を身につけたり、結論を得たりする必要がある。スポーツ、ビジネスなどの応用倫理学で思考を深め、生き方を探る。

到達目標

- ・人間とは何か、私は何かなどの疑問や課題を把握することができる。
- ・発見した課題について主体的に取り組み、個としての結論を得ることができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合いができる。
- ・「人間とは何か」について、自己の表現力、表現方法で伝えようとする事ができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心がけて生活する。「より良く生きる」「我は我なり」などの言葉との出会いを大切に、記録に留めておく。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	ようこそ倫理学「人間って本当にいいものかしら」	1	
2	道徳教育 I 人間の魅力と魔力	2	
3	道徳教育 II 重要ポイントと展望	3	
4	義務と責任 I	4	
5	義務と責任 II	5	
6	善と悪 I	6	
7	善と悪 II	7	
8	表現の自由 I	8	
9	表現の自由 II	9	
10	スポーツは公平・平等 I	10	
11	スポーツは公平・平等 II	11	
12	貨幣の倫理学 I	12	
13	貨幣の倫理学 II	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

授業外学習内容とその時間	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
課題のフィードバック方法	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400時に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版社
参考文献・推薦図書	「もろいことを読む山川倫理」小寺 聡 山川山出版社、「熊本的心」熊本県教育委員云編
関連のある授業科目	倫理学Ⅱ
資格等	なし

科目名

倫理学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

「人間とは何か」について自己に問い続けることが、社会有用の人材となるには必要である。益々、高度情報化社会が進展する中で、とすれば自己を見失い、自己有用感や自尊感情を獲得することなく、辛く困難な人生を歩んだり、自己否定の結果、生命の否定に及んだりすることもある。本授業では、多数と少数、存在と外見などの対立概念を現実の生活から問い、生きる価値について学び合う。人間はみんな本当にいいものなんだ。

到達目標

- ・人間とは何かの疑問や課題を把握することができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合うことができる。
- ・課題について主体的に追及し、検討の結果を踏まえて、自己の結論を得ることができる。
- ・追求・討論と通じて、人と社会の規範を問い続けようとするすることができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心掛けて生活する。「より良く生きる」「我はわれなり」などの言葉との出会いを大切に、記録にとどめておく。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	さらに倫理学「花のき村と盗人たち」
2		2	多数と少数Ⅰ
3		3	多数と少数Ⅱ
4		4	宗教と倫理Ⅰ
5		5	宗教と倫理Ⅱ
6		6	自殺と自由Ⅰ
7		7	自殺と自由Ⅱ
8		8	ギャンブルと自由Ⅰ
9		9	ギャンブルと自由Ⅱ
10		10	情報と倫理
11		11	生命と倫理
12		12	環境と倫理
13		13	人権福祉と倫理
14		14	小論文作成
15		15	小論文発表会、意見交流

授業外学習内容とその時間	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
課題のフィードバック方法	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400時に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版社
参考文献・推薦図書	「もういちど読む山川倫理」小寺 聡 山川出版社
関連のある授業科目	倫理学 I
資格等	なし

科目名

文学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

本講義では、詩歌、随筆、小説などいろいろな文学作品を学習し、輪読やグループでの話し合い等を通して、読解力を付けるとともに読む楽しさを味わうことができるようにする。なお、熊本・八代に関連のある作家や作品も取り上げる。お互いの読みを交流し、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の総合的なコミュニケーション力を養う。

到達目標

(1)大学生として、集中して「読むこと」の技術を習得し読解力を伸ばすことができる。

(2)ものの見方・考え方を学び、自己を見つめ視野を広げることができる。

(3)文学作品に関心を持ち、読書の楽しさを味わうことができるようにする。

事前事後学習

《事前学習》講義該当の文章を通読し、難語句の読みや意味を調べておくこと。

《事後学習》学習した作品を読んでまとめておく。ノートを整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	○
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業内容の概要および計画の説明	16	
2	星新一のショートショートを読む。『きまぐれロボット』から	17	
3	星新一のショートショートを読む。構成のおもしろさ	18	
4	詩を読み、鑑賞力をつける。	19	
5	随筆を読み、鑑賞力をつける。岡潔『春宵十話』から	20	
6	随筆を読み、鑑賞力をつける。向田邦子『父の詫び状』から	21	
7	短編小説を輪読する。芥川龍之介『鼻』から	22	
8	短編小説の作中人物の考察	23	
9	短編小説の文体等の考察	24	
10	短編小説『さすらいの煩惱』(黒川嘉正)を輪読する。	25	
11	短編小説『さすらいの煩惱』山頭火の生き方を探る。	26	
12	短編小説『さすらいの煩惱』山頭火の日奈久の3日間を探る。	27	
13	山頭火の俳句の鑑賞 小論文 課題提示	28	
14	課題提出	29	
15	講義のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	短編小説を読む。		
課題のフィードバック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。全体的にできていないところを再指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	70%	プレゼンテーション	有
小テスト	10%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『羅生門・鼻・芋粥』芥川龍之介 角川文庫 岡潔『春宵十話』光文社 その他の教材は作成し配布する。
参考文献・推薦図書	星新一『きまぐれロボット』・向田邦子『父の詫び状』・黒川嘉正『さすらいの煩惱』
関連のある授業科目	
資格等	

科目名

文学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

文学Ⅱでは、文学1を踏まえ、登場人物の生き方を学び、読解力をさらに伸ばす。そのために優れた日本文学の韻文・散文に出会い、読み方・学び方を深めて、文章の描写の美しさ・細やかさに気付くようにする。熊本・八代にゆかりのある名作や作家も取り上げ、郷土の自然や先人の心に共感する機会とする。

到達目標

- (1) 地方文学を含めた文学作品を読解し、その良さや美しさを味わうことができる。
- (2) 表現を通して感動した場面を押さえ、自己を見つめ、共感することができる。
- (3) 文学作品に関心を持ち、読書の楽しさを味わうことができる。

事前事後学習

《事前学習》講義該当の文章を通読し、難語句の読みや意味を調べておくこと。
《事後学習》学習した作品を読んで自分の感想をノートにまとめておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	○
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	授業内容の概要および計画の説明
2		17	短編小説『黄昏の蝶』(黒川嘉正)を輪読する。
3		18	短編小説『黄昏の蝶』作中人物の考察
4		19	短編小説『黄昏の蝶』表現の考察
5		20	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
6		21	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
7		22	八代に関連のある万葉集を探る。
8		23	八代に関連のある連歌師「西山宗因」を探る。
9		24	熊本ゆかりの『草枕』(夏目漱石)を輪読する。
10		25	熊本ゆかりの『草枕』を輪読する。
11		26	熊本ゆかりの『草枕』を輪読する。(非人情と不人情)
12		27	随筆を読み、ものの見方・考え方を広げる。 幸田文『父・こんなこと』
13		28	小論文の書き方と作成準備 課題提示
14		29	課題についての小論文提出
15		30	講義のまとめ

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。全体的にできていないところを繰り返し指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	70%	プレゼンテーション	有
小テスト	10%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『草枕』夏目漱石 新潮文庫 幸田文『父・こんなこと』 その他の教材は作成し配布する。
参考文献・推薦図書	黒川嘉正『黄昏の蝶』・徳富蘆花の作品・万葉集
関連のある授業科目	
資格等	

科目名

法学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

社会生活を営む上で数多くの法律(正式な法律名を知らないものがほとんどである)と関わり合いを持ってざるを得ない。たとえば、売買、土地・建物の賃貸、交通事故、家庭における親子関係、相続や新聞の三面記事に載る犯罪、また会社で働く場合の会社との関係などである。これらの法律関係を基礎から考えたい。

到達目標

売買、賃貸借等契約内容の理解、交通事故による損害賠償責任の意味、婚姻・離婚・相続・親子関係についての民法の定め等、最低限度の知識を修得する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。
ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	法の意義 法と道德の違い
2	法の適用 裁判の意味と構造
3	家庭と法 親族関係について(1)
4	家族と法 親族関係について(2)
5	家族と法 相続関係について
6	犯罪と法 犯罪とは何か?
7	犯罪と法 罪刑法定主義
8	犯罪と法 刑罰の意味、内容
9	損害と法 不法行為
10	損害と法 損害賠償義務
11	企業と法 会社の種類
12	企業と法 会社の種類
13	企業と法 株式会社の内容
14	職場と法 労働基準法の意義
15	職場と法 労働基準法の原則

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート等提出(15%)、学習態度等(15%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之著 有信堂高文社	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	資格等
法学Ⅱ	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

法学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

前期科目の「法学Ⅰ」は、法学全般に対する基本的な理解を目標とするが、「法学Ⅱ」は法学Ⅰの理解を前提として、法律と政治の実践的な問題について説明したい。

到達目標

選挙に関する憲法および公職選挙法の規定、社会権のひとつとして憲法の保障する労働基本権や労働法の原則、さらに裁判に対する原則などを理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	後期
1	政治① 民主主義について
2	政治② 政治的イデオロギーの機能
3	政治③ 選挙について
4	政治④ 現代国家の政治的特質
5	政治⑤ ナショナリズムについて
6	法律Ⅰ① 憲法の三大原則について
7	法律Ⅰ② 国会について
8	法律Ⅰ③ 裁判所について
9	法律Ⅰ④ 地方自治について
10	法律Ⅱ① 民法総則
11	法律Ⅱ② 物権法
12	法律Ⅱ③ 債権法
13	法律Ⅲ① 会社法
14	法律Ⅲ② 有価証券法
15	法律Ⅳ 労働法の現代的課題

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之 有信堂高文社	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	資格等
法学 I	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

英会話 I

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

村橋哲也

実務経験

授業の概要

より実践的な英文法を学んで日常会話に必要な英語を場面別に学習します。

到達目標

簡単な日常会話に必要な英語をマスターすることを目的とします。

事前事後学習

予習、復習に加え、クラスでの積極的な姿勢を期待します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	オリエンテーション(シラバス等の説明)	16	Unit5:道のきき方
2	自己紹介、日常的なあいさつ	17	Unit5:道のきき方 (応用編)
3	単語を増やそう	18	プレゼンテーション:海外について学ぼう!
4	基礎的な英文法	19	Unit6:ホームステイ
5	基本的な英文法	20	Unit6:ホームステイ
6	テキストに登場する人物	21	Unit7:病気に関する会話
7	Unit1:機内での会話	22	Unit8:電話での会話
8	Unit1:機内での会話	23	Unit8:電話での会話
9	Unit:1応用編	24	Unit9:レストランでの会話
10	プレゼンテーション (Show & Tell)	25	Unit9:レストランでの会話
11	Unit2:入国審査に関する会話	26	Unit10:家族の紹介
12	Unit2:入国審査に関する会話	27	Unit10:家族の紹介
13	Unit3:両替に関する会話	28	総復習
14	Unit4:ホテルの予約	29	映画鑑賞
15	映画鑑賞	30	英語で寸劇を作ろう

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	一億人の英文法 大西泰斗、ポール・マクベイ著 東進ブックス
参考文献・推薦図書	随時紹介します
関連のある授業科目	英会話Ⅱ
資格等	なし

科目名

英会話Ⅱ

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

村橋哲也

実務経験

授業の概要

従来とは異なるアプローチで、基本的な英文法を復習・確認し、日常会話に必要な英語を学習し、様々な場面に応じて自分で考えることができるように、より実践的な英語を学んでいきます。

到達目標

簡単な日常会話だけでなく、自分の考えを正確に表現できる英語を身につけることを目的とします。

事前事後学習

予習、復習に加え、クラスでの積極的な姿勢を期待します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	オリエンテーション(シラバス等の説明)	16	Chapter2:Section1:可算名詞・不可算名詞
2	Chapter 0: 英文法の歩き方	17	Chapter2:Section 2:単数名詞・複数名詞
3	Chapter 1:Section 1:主語	18	Chapter2:Section 3:限定詞
4	Chapter1:Section 1: 無生物主語	19	Chapter2:Section 4:代名詞
5	Chapter1:Section 2: 動詞	20	Chapter3:Section 1:形容詞 前から限定
6	Chapter1: Section 3:基本文型1 他動型	21	Chapter3:Section 2:後ろから説明
7	Chapter1: Section 4: 基本文型2 自動型	22	Chapter3:Section 3:何でも形容詞
8	Chapter1: Section 5: 基本文型3 説明型	23	Chapter4:Section 1:副詞 説明の副詞
9	Chapter1: Section 6: 基本文型4 授与型	24	Chapter4:Section 2:限定の副詞
10	Chapter1: Section 7: 目的語説明文	25	Chapter5:Section 1:比較 同レベルを表す
11	Chapter1:Section 8: レポート文	26	Chapter5:Section 2:比較表現「～より」
12	Chapter1:Section 9: 命令文	27	Chapter5:Section 3:最上級表現「最も」
13	Chapter1:Section 10: There文	28	Chapter6:Section 1: notは前から
14	Chapter1:Section 1 - 10 復習	29	Chapter6:Section 2:「強い単語」との組み合わせ
15	第1回テスト	30	Chapter6:Section 3: notのクセ

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	一億人の英文法 大西泰斗、ポール・マクベイ著 東進ブックス
参考文献・推薦図書	随時紹介します
関連のある授業科目	英会話 I
資格等	なし

科目名

簿記

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

磯部雄大

実務経験

税理士

授業の概要

簿記初学者を対象に簿記の基礎から日商簿記3級程度の力の習得を目指す。簿記の実務は、問題やテキストでの勉強だけではイメージが湧きづらいので、実際の実務での処理も交えながら簿記の全体像を理解していきます。

到達目標

- ・簿記の流れについて理解する。
- ・勘定科目の意味を把握する。
- ・貸借対照表、損益計算書について理解する。

事前事後学習

事前にテキストの該当ページについて目を通しておくこと

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	簿記とは、資産・負債・資本と貸借対照表	16	その他債権・債務取引(立替金、預り金ほか)
2	収益・費用と損益計算書	17	売買目的有価証券、固定資産取引
3	取引と勘定記入	18	個人企業の資本と税務取引(資本金勘定、引出金勘定)
4	仕訳と転記	19	個人企業の資本と税務取引(個人企業の税金、消費税)、訂正仕訳
5	試算表、決算(決算とは、決算の手続き、振替と損益勘定)	20	演習問題他
6	決算(帳簿決算、損益計算書・貸借対照表の作成)	21	決算の手続き(決算、決算の手続き、決算整理事項①)
7	演習問題他	22	決算の手続き(決算整理事項①)
8	現金・預金取引(現金・現金過不足)	23	決算の手続き(棚卸表、8欄精算表)
9	現金・預金取引(当座預金・当座借越)	24	決算の手続き(BS、PLの作成)
10	現金・預金取引(小口現金)	25	決算の手続き(決算整理事項②)
11	商品売買取引(分記法と3分法)	26	決算の手続き(決算整理事項②)
12	商品売買取引(3分法による記帳)	27	伝票
13	掛け取引(売掛金と売掛金元帳、買掛金と買掛金元帳)	28	演習問題他
14	手形取引(受取手形勘定と支払手形勘定他)	29	演習問題他
15	その他の債権・債務取引(貸付金、借入金ほか)	30	演習問題他

授業外学習内容 とその時間	授業前予習30分、復習30分		
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	無
レポート		プレゼンテーション	無
小テスト		スピーチ	無
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	無
平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	無
その他		その他	

テキスト	スッキリわかる 日商簿記3級 第12版 TAC出版
参考文献・推薦図書	なし
関連のある授業科目	会計学
資格等	日商簿記3級受験

科目名

社会の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係を体系的にとらえることができるように関連諸制度を含めて概説する。

(授業の目的、ねらい)

1. 個や集団、社会単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的にとらえることができるようになる。
2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を理解し実践に結び付けることができるようになる。

到達目標

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の仕組みについて理解し説明できる。

2. 人間の生活と社会の関わりや地域における生活構造について理解し自助・互助・共助・公助について説明することができる。

3. 地域共生社会について、その求められる社会的背景や理念について説明できる。

4. 地域包括ケアについて、その求められる社会的背景や理念について説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。

事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期	
1	社会と生活の仕組み	生活を幅広くとらえる(「人間」をとらえる複合的視点)
2		生活の基本機能(生活の多様性の理解)
3		ライフスタイルの変化
4		家族の機能と役割
5		社会・組織の機能と役割
6		地域・地域社会(自助・互助・共助・公助)
7		地域社会における生活支援(地域社会の変化)
8		地域の集団、組織による生活支援
9	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域福祉の発展① 地域福祉の理念と歴史的発展
10		地域福祉の発展② 地域福祉の充実
11		地域共生社会① 地域共生社会と社会的背景
12		地域共生社会② 地域共生社会の理念
13		地域共生社会③ 実現に向けた取り組み
14		地域包括ケア① 地域包括ケアの理念
15		地域包括ケア② 地域包括ケアシステム

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第2版)」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
社会の理解Ⅱ、介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

医療事務

《2単位(演習)／全学科後期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

診療報酬請求事務業務や窓口業務など医療事務職として求められる専門知識および技術を学ぶとともに「メディカルクラーク」の称号取得を目指す。

到達目標

医療機関等における受付業務、診療報酬請求事務業務に関する能力を身につける。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に課題を提出してもらう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	患者接遇／医療事務一般知識1	16	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ
2	患者接遇／医療事務一般知識2	17	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ
3	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	18	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ
4	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	19	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
5	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	20	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
6	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	21	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
7	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	22	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
8	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	23	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
9	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	24	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
10	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	25	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
11	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	26	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
12	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	27	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
13	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	28	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセ
14	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	29	総合演習1
15	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセ	30	総合演習2

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法	学習支援ポータル上にて行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他(確認テスト)	70%	その他	

テキスト	『診療報酬・完全攻略マニュアル2022-23年版』青山美智子、医学通信社
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	
資格等	メディカルクラーク

科目名

社会の理解Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要	<p>社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する制度について概観する。 (授業の目的、ねらい)</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の社会保障制度の基本的な考え方、仕組みについて理解し説明することができるようになる。 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について介護実践に必要な観点から基礎的な知識を理解し実践に結び付けることができるようになる。
--------------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 社会保障制度の基本的な考え方のしくみ、社会保障の現状と課題を理解し説明できる。 高齢者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者保健福祉の現状と課題を理解し説明することができる。 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解し説明することができる。 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解し説明することができる。
-------------	---

事前事後学習	<p>事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。 事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。</p>
---------------	---

ディプロマポリシーに係る学習成果		学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期	
1	社会保障制度	社会保障の基本的な考え方と制度の発達
2		社会保障制度の仕組みと持続可能性
3	高齢者福祉と介護保険制度	高齢者保健福祉の動向と今日的課題
4		高齢者保健福祉に関する法体系
5		介護保険制度① 制度創設の背景と基本的理解
6		介護保険制度② 組織、団体、介護支援専門員等の役割
7		介護保険制度③ 介護保険制度の動向
8	障害者福祉と障害者保健福祉制度	障害者保健福祉の動向と関連する法体系
9		障害者総合支援法① 自立支援給付と地域生活支援事業
10		障害者総合支援法② 障害支援区分と利用続き
11		障害者総合支援法③ 相談支援事業と相談支援専門員
12		介護保険制度と障害者総合支援制度
13	介護実践に関する諸制度	個人の権利を守る制度・施策
14		保健医療に関する制度・施策
15		貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策と、域生活を支援する制・施策

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第2版)」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

人間関係とコミュニケーション I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

自己理解、他者理解を基に人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて基礎的な知識を身につけその実践力を養う。
(授業の目的、ねらい)
介護の実践のために必要な人間の理解や対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

到達目標

1. 人間と人間関係について理解し説明できる。
2. 対人関係におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。
3. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。
4. 組織におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所テキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	人間と人間関係① 人間らしさの始まり
2	人間と人間関係② 自分と他者の理解
3	人間と人間関係③ 発達心理学から見た人間関係
4	人間と人間関係④ 社会心理学から見た人間関係
5	人間と人間関係⑤ 社会関係とストレス
6	対人関係におけるコミュニケーション① コミュニケーションの概念
7	対人関係におけるコミュニケーション② コミュニケーションの基本構造
8	対人関係におけるコミュニケーション③ コミュニケーションの手段
9	対人援助関係におけるコミュニケーション① 人間関係とコミュニケーション
10	対人援助関係におけるコミュニケーション② 対人援助における基本的態度
11	対人援助関係におけるコミュニケーション③ 援助的人間関係の形成とバイスティックの7つの原則
12	組織におけるコミュニケーション① 組織の条件とコミュニケーションの特徴
13	組織におけるコミュニケーション② 組織における情報の流れ
14	組織におけるコミュニケーション③ 組織において求められるコミュニケーション
15	組織におけるコミュニケーション④ 集団討議(KJ法・ブレインストーミング)

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第2版)」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

人間関係とコミュニケーションⅡ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

介護の質を高めるために必要なチームマネジメントを理解するために対人サービス(ヒューマンサービス)としての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理方法の基礎について概説する。

(授業の目的、ねらい)

介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための実践的な能力を習得する。

到達目標

1. 介護におけるチームマネジメントの意義について理解し説明できる。
2. 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成、活用等について理解し説明できる。
3. リーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基礎を理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	介護実践におけるチームマネジメント① ヒューマンサービスとしての介護サービス
2	介護実践におけるチームマネジメント② 介護現場で求められるチームマネジメント
3	介護実践におけるチームマネジメント③ 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
4	ケアを展開するためのチームマネジメント① ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
5	ケアを展開するためのチームマネジメント② チームでケアを展開するためのマネジメント
6	ケアを展開するためのチームマネジメント③ チームの力を最大化するためのマネジメント
7	ケアを展開するためのチームマネジメント④ リーダーシップ・フォロワーシップについて考える
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント① 介護福祉職のキャリアと求められる実践力
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント② 介護福祉職としてのキャリアデザイン
10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③ 介護福祉職のキャリア支援・開発
11	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④ 自己研鑽に必要な姿勢
12	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント⑤ スーパービジョンの機能の理解
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント① 介護サービスを支える組織の構造
14	組織の目標達成のためのチームマネジメント② 介護サービスを支える組織の機能と役割
15	組織の目標達成のためのチームマネジメント③ 介護サービスを支える組織の管理

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第2版)」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

社会福祉概論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を習得する。
福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活支援の理解を通しその生活を支える必要性を理解し身につける。
(授業の目的・ねらい)
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎身につける。

到達目標

1. 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解し専門職としての基盤となる倫理観を身につける。
2. 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解し説明することができる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	○
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	後期	
1	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体
2		人権思想の潮流とその具現化
3		人権や尊厳に関する日本の諸規定
4		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①
5		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②
6		生命倫理と介護福祉
7		人権尊重と権利擁護
8		家庭内暴力に関する法律と介護福祉
9	介護にける尊厳の保持と自立の概念	自立概念の多様性
10		自立と自己選択・決定と自律
11		自立支援がめざすもの
12		自立への意欲と動機づけ
13		介護を必要とする人々の自立と自立支援
14		尊厳の保持と自立、自立支援の関係性
15		尊厳を守る介護

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第3版)」 中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
「福祉ってなんだ」古川孝順 岩波ジュニア新書	
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

地域福祉論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

講義、グループディスカッションを通じ、地域課題の事例(模擬事例)を基に、地域福祉の基本的な考え方と課題把握の方法について概説する。

また、地域住民の生活ニーズ充足にむけての社会資源の活用・調整・開発のための方法について学び実践力を養う。

(授業の目的・ねらい)

1. 地域生活を支えるさまざまな団体、組織を知り、自らが社会福祉の担い手として地域で活動できる。
2. 地域包括ケア(システム)の構築に向けた取り組みについて理解することができる。

到達目標

1. 地域福祉の基本的考え方について理解し説明できる。
2. 地域住民の自立生活実現にむけての各組織、専門職の役割について理解し説明できる。
3. 地域問題解決における援助方法について理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所の配布資料等を読んでおくこと。
事後学習として、配布資料やノート等に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	後期
1	地域福祉の歴史とその基本的考え方(地域福祉の理論)
2	地域福祉の基本的考え方(地域分析の枠組み)
3	地域福祉に関連するわが国の諸制度①
4	地域福祉に関連するわが国の諸制度②
5	地域福祉に関連する組織(社会福祉法人)
6	地域福祉に関連する組織(NPO)
7	地域福祉に関連する組織(社会福祉協議会)
8	地域福祉に関連する組織(共同募金会)
9	地域福祉に関連する組織(民生委員・児童委員)
10	コミュニティソーシャルワークの実際①
11	コミュニティソーシャルワークの実際②
12	社会資源活用、調整、開発の進め方
13	事例検討①
14	事例検討②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

授業態度(10点)、確認テスト(10点)、レポート課題(10点)、筆記試験(70点)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「地域福祉と包括支援体制」最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 中央法規出版 「入門 高齢者福祉」 ミネルバ書房	「福祉を拓く2」 南方新社 「社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法」(中央 法規出版)
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、社会の理解Ⅰ、Ⅱ	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

介護実習Ⅱ

《4単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、橋本 病院に勤務:篠原

授業の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。実習は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設で23日間行う。

(授業の目的、ねらい)

・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養い、自立支援の観点から介護実践ができる能力を学ぶ。また、ご利用者やご家族等に対する精神的支援や援助のために実践的なコミュニケーション能力を身につけ、多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程の展開できる能力を養い、ご利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を習得する。

到達目標

- ①受け持ち担当者に対して、アセスメントを行い、短期入所のイメージで個別介護計画を作成、モニタリングを行い、計画の修正を行うといった、一連の介護過程の実践的展開をする。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療と介護の区別や違いを理解する。
- ④地域における生活支援の実践を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

高齢者施設の介護現場で実習を行う	◆期日 2年次:9月～10月(23日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
	◆実習先 特別養護老人ホームもしくは介護老人保健施設
	◆目標【第1週】 ①施設の概要、機能、役割、1日のスケジュール等を理解する。 ②実習指導者の指導を受け、受け持ち担当者のアセスメントを行う。
	◆目標【第2週～第5週】 ①利用者に提供される日常生活上の介護技術を習得する。 ②日常生活上の不自由を有する人への介護・援助方法を習得する。 ③受け持ち担当者の個別援助計画を立案、実施し、モニタリングの結果、必要であれば計画の見直しを行う。 ④関係職種との役割と連携方法を習得する。 ⑤地域における生活支援の実践や施設の役割を学び、家族への支援、地域ケアの展開方法を学ぶ。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名【生活支援技術Ⅶ】

《2単位(講義or演習)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

山口 亮治

授業の概要

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

生活支援について概説する。
自立支援に向けた居住環境の整備について概説する。
自立に向けた身支度の介護について概説する。
自立に向けた移動の介護について概説する。

事前事後学習

①介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。
②利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	運動機能障害とADL
2		2	生活場面と支援
3		3	介護技術の展開
4		4	心臓機能障害の理解
5		5	介護技術の展開
6		6	腎臓機能障害の理解
7		7	介護技術の展開
8		8	呼吸器機能障害の理解
9		9	介護技術の展開
10		10	膀胱機能障害の理解
11		11	介護技術の展開
12		12	肝臓機能障害の理解
13		13	介護技術の展開
14		14	重複障害の理解
15		15	介護技術の展開

成績評価基準及び方法

小テスト(10%)、学習態度(10%)テスト(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ3版」中央法規出版 「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版	「介護福祉用具辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ、介護基本など	「介護福祉士国家試験受験資格」

科目名

介護基本Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護を必要とする人の理解(人間の多様性と複雑性)と協働する多職種の機能と役割について概説する。
 ・介護における安全の確保とリスクマネジメントから介護従事者の安全について概説する。(授業の目的、ねらい)
 ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしきみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①介護福祉士の倫理に基づいて、「社会福祉士および介護福祉士法」の規定のもとに理解し、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて理解できる。また、多職種連携・協働をIPWの実際を通して学び、介護福祉職自らの専門性について理解できる。②生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全・感染対策の重要性について学び、介護福祉職自らの健康管理と意義と目的を理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
 授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた介護	介護福祉における自立支援の意義
2	介護を必要とする人の理解～人間の多様性・複雑性の理解	生活史、価値観、生活観、生活習慣、就労、雇用、生活様式等の多様性
3		
4		
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント	観察、正確な技術、予測・分析
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント～事故防止、安全対策	セーフティマネジメント、緊急連絡システム、防火・防災対策、利用者の生活の安全(防犯、消費者被害)
7		
8		
9		
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント～感染対策	感染予防の意義と介護、感染管理、衛生管理
11		
12		
13	介護従事者の安全と介護従事者の倫理～介護従事者の心身の健康管理	介護従事者を守る団体と法制度
14		
15		
		介護従事者を守る環境の整備
		介護従事者の心身の健康管理

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート(20%)、定期試験(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新 介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」(第2版) 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護基本VI

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

橋本晃	実務経験	施設に勤務
------------	-------------	--------------

授業の概要

・介護を必要とする人の理解(人間の多様性と複雑性)と協働する多職種の機能と役割について概説する。
 ・介護における安全の確保とリスクマネジメントから介護従事者の安全について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしきみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①介護福祉士の倫理に基づいて、「社会福祉士および介護福祉士法」の規定のもとに理解し、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて理解できる。また、多職種連携・協働をIPWの実際を通して学び、介護福祉職自らの専門性について理解できる。②生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全・感染対策の重要性について学び、介護福祉職自らの健康管理と意義と目的を理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
 授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	項目	内容
1	自立に向けた介護	介護福祉における自立支援の意義
2	介護を必要とする人の理解～人間の多様性・複雑性の理解	生活史、価値観、生活観、生活習慣、就労、雇用、生活様式等の多様性
3		
4		
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント	観察、正確な技術、予測・分析
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント～事故防止、安全対策	セーフティマネジメント、緊急連絡システム、防火・防災対策、利用者の生活の安全(防犯、消費者被害)
7		
8		
9		転倒・転落防止、骨折予防(介護予防)、事故対策
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント～感染対策	感染予防の意義と介護、感染管理、衛生管理
11		
12		感染予防の基礎知識と技術
13	介護従事者の安全と介護従事者の倫理～介護従事者の心身の健康管理	介護従事者を守る団体と法制度
14		介護従事者を守る環境の整備
15		介護従事者の心身の健康管理

成績評価基準及び方法

定期試験(40%)、演習(30%)、レポート(20%)、学習態度(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
最新 介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ(第2版)中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

橋本 晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・生活支援について概説する。
 ・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
 ・自立に向けた移動の介護について概説する。
 ・自立に向けた排泄の介護について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
 ②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
 ③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
 ④安心で心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
 ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	生活支援の理解	生活支援の意義・目的
2		生活支援と介護過程
3	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	ひげ・爪の手入れ
4		点眼・化粧
5		口腔ケアを理解する
6		
7		歩行介助を理解する
8		自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解
9	移乗の介護を理解する	
10	生活支援における介護	安楽な体位の保持を理解する
11		体位変換を理解する
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	排泄の介護(尿器・差し込み便器)
13		排泄の介護(トイレ・ポータブルトイレ)
14	課題別の技術確認	技術の確認
15		

成績評価基準及び方法

レポート(50%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術 I・II」(第2版)中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

橋本 晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・生活支援について概説する。
 ・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
 ・自立に向けた移動の介護について概説する。
 ・自立に向けた排泄の介護について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
 ②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
 ③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
 ④安心して心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
 ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	生活支援の理解	生活支援の意義・目的
2		生活支援と介護過程
3	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	シーツ交換
4		洗面・整髪・ひげ・爪の手入れ・点眼・化粧
5		口腔ケア
6		
7	自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解	歩行介助
8		車いす介助
9		移乗の介護
10	生活支援における介護	安楽な体位の保持
11		体位変換
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	排泄の介護(尿器・差し込み便器)
13		排泄の介護(トイレ・ポータブルトイレ)
14	課題別の技術確認	技術の確認
15		

成績評価基準及び方法

実技試験(50%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版(第2版)	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術区

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・自立に向けた身じたくの介護を習得する。
・自立に向けた移動の介護を習得する。
・自立に向けた排泄の介護を習得する。
・自立に向けた休息・睡眠の介護を習得する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解することができる。
- ②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
- ③利用者の状況に応じた介護技術が展開することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた身じたくの介護・自立に向けた移動の介護	知的障がい者と生活支援
2		介護技術の展開
3		精神障がい者と生活支援
4		介護技術の展開
5		高次脳機能障害と生活支援
6		介護技術の展開
7		発達障がい者の生活支援
8		介護技術の展開
9		重度心身障がい者の生活支援
10		介護技術の展開
11	自立に向けた排泄の介護	障害に応じた排泄の介護
12		介護技術の展開
13	自立に向けた休息・睡眠の介護	障害に応じた休息・睡眠の介護
14		介護技術の展開
15	まとめ	

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、効果測定(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版(第2版)	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「プロが教える本当に役立つ介護術」ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅹ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・人生の最終段階における介護について概説する。
・福祉用具の意義と活用について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解する。
- ②利用者の状況に応じた介護技術が展開できる。
- ③人生の最終段階における介護が理解できる。
- ④福祉用具の意義と活用について理解できる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期	
1	人生の最終段階における介護	人生の最終段階とは
2		人生の最終段階にある人の介護の視点
3		
4		人生の最終段階を支えるための基本となる知識と技術
5		
6		
7		
8	福祉用具の意義と活用	福祉用具の意義と目的
9		自立に向けた福祉用具活用の視点
10		
11		適切な福祉用具の選択の知識と留意点
12		
13		
14		
15		今後の福祉機器とICTの広がり

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ」中央法規出版(第2版)	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「幸せな旅立ちを約束します 看取り士」コスモス21
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護基本 I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／介護必修》

担当者

黒木真吾

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護の基本となる理念について概説する。
 ・介護福祉士の役割と機能について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①わたしたちの生活を理解できる。
- ②介護を必要とする人の理解ができる。
- ③介護福祉の基本となる理念を理解できる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本 I」の当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		回		
1	介護を必要とする人の理解	1 6	介護を必要とする人の理解	家族介護者の理解と支援
2		1 7	介護福祉の基本となる理念	社会の変化と介護福祉の歴史～家族機能の変化
3		1 8		社会の変化と介護福祉の歴史～地域社会の変化
4		1 9		社会の変化と介護福祉の歴史～介護需要の増加と発展
5		2 0		介護の社会化～介護問題の複雑化・多様化
6		2 1		介護の社会化～介護従事者の多様化・地域社会を支える介護
7		2 2		介護福祉の基本理念～尊厳を支える介護
8		2 3		介護福祉の基本理念～自立を支える介護
9		2 4		
10		2 5		
11		2 6		
12		2 7		
13		2 8		
14		2 9		
15		3 0		

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「介護基本Ⅰ(第2版)」「介護基本Ⅱ(第2版)」中央法規	「21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)」学文社 「高齢者福祉」みらい
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護基本Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・尊厳を支える介護について概説する。
・自立に向けた介護について概説する。
・介護を必要とする人の理解について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ① 尊厳を支える介護とは何かについて説明できる。
- ② 自立に向けた介護とは何かについて説明できる。
- ③ 介護を必要とする人の生活ニーズは何かについて説明できる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本Ⅰ」の当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた介護	生活意欲と活動
2		
3		
4		
5		介護予防
6		
7		
8		
9		リハビリテーションと介護福祉
10		
11		
12		
13		就労支援
14		自立と生活支援
15		

成績評価基準及び方法

学習態度及びレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「介護の基本Ⅰ(第2版)」「介護の基本Ⅱ(第2版)」中央法規	「21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)」学文社 「高齢者福祉」みらい
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、障がいの理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護基本Ⅲ

《4単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

黒木真吾

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護を必要とする人の理解について概説する。
 ・介護サービスについて概説する。
 ・多職種協働について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①介護福祉士とは何かを理解することができる。
 ②介護サービス提供の場を理解することができる。
 ③介護実践における多職種協働を理解することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
 授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		回	
1	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	16	協働する多職種の役割と機能
2		17	
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	
7	介護を必要とする人の生活の場とフォーマルな支援の活用	22	協働する多職種の役割と機能
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13	インフォーマルな支援の活用	28	協働する多職種の役割と機能
14		29	
15		30	

成績評価基準及び方法

定期試験(80%)、学習態度及びレポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「介護の基本 I (第2版)」「介護の基本 II (第2版)」中央法規	「21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)」学文社 「高齢者福祉」みらい
関連のある授業科目	資格等
社会の理解 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護基本V

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護福祉士を取り巻く状況について概説する。
・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて概説する。
・介護従事者の倫理について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

・介護福祉士を取り巻く状況について説明できる。
・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明できる。
・介護従事者の倫理について説明できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本Ⅱ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	○

授業計画(項目・内容)

回		
1		
2	介護福祉士の役割と機能～介護福祉士とは	介護福祉士の定義、機能と活動の場と役割
3		
4		
5	介護福祉士の倫理	職業倫理の意義
6		法令遵守
7		日本介護福祉士会倫理基準(行動規範)
8		
9		
10	介護福祉士の役割と機能～介護福祉士を支える団体	職能・学術団体の意義
11		
12		職能・学術団体①
13		
14		職能・学術団体②
15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「介護の基本Ⅰ(第2版)」「介護の基本Ⅱ(第2版)」中央法規	「21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)」学文社
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、介護総合演習ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅳ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説する。
・自立に向けた食事の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
・自立に向けた睡眠の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解することができる。
- ②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
- ③利用者の状況に合わせた介護技術を理解することができる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	自立支援の入浴介護
2		入浴におけるアセスメント
3		清潔保持の基本理解
4		他職種との役割と協働
5	自立に向けた食事の介護	自立支援の食事介護
6		食事におけるアセスメント
7		対象者の状態に応じた留意点(視覚障害)
8		他職種との役割と協働
9	自立に向けた排泄の介護	自立支援の排泄介護(おむつ交換)
10		排泄におけるアセスメント
11		排泄における基本理解
12		他職種との役割と協働
13	休息・睡眠の介護	自立支援の休息・睡眠の介護とアセスメント
14		休息・睡眠の介護における基本理解
15		他職種との役割と協働

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「生活支援技術Ⅰ(第2版)」「生活支援技術Ⅱ(第2版)」「生活支援技術Ⅲ(第2版)」中央法規	「21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術 V

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説・習得する。
・自立に向けた排泄の介護について概説・習得する。
・自立に向けた睡眠の介護について概説・習得する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解することができる。
- ②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
- ③利用者の状況に合わせた介護技術を理解・習得することができる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持の意義
2		入浴・清潔保持の目的
3		入浴の介護技術
4		
5	自立に向けた食事の介護	食事の意義
6		食事の目的
7		食事の介護技術
8		
9	自立に向けた排泄の介護	排泄の意義
10		排泄の目的
11		排泄の介護技術
12		
13	休息・睡眠の介護	休息・睡眠の意義・目的
14		休息・睡眠の介護技術
15		

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、実技試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「生活支援技術Ⅰ(第2版)」「生活支援技術Ⅱ(第2版)」「生活支援技術Ⅲ(第2版)」中央法規	「21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

経済統計

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

日本経済の現状を理解するためには、様々な経済統計を参照する必要があり、経済統計の理解が必要不可欠である。本講義では、経済分析に必要な経済統計の意味を理解するとともに、様々な経済統計をもとにして日本経済の現状を解説してゆく。

到達目標

経済統計の意味を理解し、データをもとにして日本経済の現状を理解できるようになる

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経済統計とは何か		
2	日本の財政		
3	GDPとは何か(フローとストックについて)		
4	GDPとは何か(付加価値、総額と純額について)		
5	一人当たりGDP、GDP成長率		
6	GDP成長率の計算		
7	インフレーション、デフレーション、消費者物価指数		
8	失業率、スタグフレーション		
9	銀行の役割、信用創造、金融政策		
10	円高と円安		
11	マネタリーベースとマネーストック		
12	経済循環		
13	三面等価の原則		
14	経済成長率と寄与度・寄与率		
15	小テスト		

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	20%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『経済統計入門』 中村隆英著 東京大学出版会
関連のある授業科目	経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、国際経済論、総合政策論
資格等	なし

科目名

中小企業論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

現在の日本経済を支えているのは一部の大企業ではなく、多くの中小企業である。中小企業は国民経済の礎であり、様々な技術やノウハウを持っている。中小企業の現状と特徴を理解することは、日本の経済、産業、流通、労働などを理解することにつながる。本講義では、中小企業を様々な観点から解説するとともに、学生の中小企業への理解の深化と関心を高める事を重視して進めている。

到達目標

中小企業が経済において果たす役割と重要性、日本の中小企業の特徴を理解する。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	○
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	中小企業とは何か、中小企業をとりまく経営環境		
2	中小企業の特質と経営問題		
3	中小企業が抱える経営問題に対する課題と方策		
4	下請システムと中小企業		
5	下請けシステムの生成と発展		
6	中小企業と雇用不安・格差問題		
7	中小企業と金融問題		
8	公的金融と地域金融機関		
9	産業集積の概念と理論		
10	柔軟な専門化論、産業クラスター論		
11	日本企業の海外進出の現状(1)		
12	日本企業の海外進出の現状(2)		
13	日本企業の中国への進出		
14	東アジアでの事業展開		
15	まとめ		

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題をアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題の模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『現代中小企業論』, 高田亮爾 他著, 2013年版, 同友館
関連のある授業科目	経済学Ⅰ・経済学Ⅱ
資格等	なし

科目名

経済学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／選択必修》

担当者

宇野木 広樹

実務経験

授業の概要

我々は周囲の人々との色々な関係の中で生活しています。個人の行動は少なからず、周囲の人々の行動に影響を与え、それが社会全体への影響として波及していきます。集団的意思決定メカニズムでは、結果が自分ひとりの行動によって決まるのではなく、相手の行動によっても異なります。このように、複数の主体が相互に依存し合う状況をゲーム理論を用いて簡潔に表現し、理解していきます。また、家計や企業の経済行動を考えるマイクロ経済学の基礎的な部分を、身の回りの状況に照らし合わせながら解説していきます。

到達目標

マイクロ経済学とゲーム理論とはどのようなものか、消費者行動の理論、生産者行動の理論、戦略形ゲーム、展開形ゲームなどを理解する。公務員試験などで出題される問題を解けるようになる。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経済学とは何か		
2	需要と供給		
3	市場均衡		
4	均衡に影響を与える要因		
5	限界効用均等の法則		
6	限界生産力		
7	利潤最大化条件		
8	小テスト(1)		
9	インセンティブと均衡		
10	戦略形ゲーム(1)		
11	戦略形ゲーム(2)		
12	展開形ゲーム(1)		
13	展開形ゲーム(2)		
14	展開形ゲーム(3)		
15	小テスト(2)		

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	40%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『ミクロ経済学戦略的アプローチ』, 梶井厚志、松井彰彦著, 日本評論社
関連のある授業科目	経済学Ⅱ、総合政策論、経済統計
資格等	なし

科目名

経済学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

人々の意見をまとめてその中から望ましい選択肢を選び出すルールを集約ルールといいます。代表的な集約ルールは単純多数決であり、我々は普段から良く用いています。しかし、単純多数決よりもより優れた集約ルールがたくさん存在します。より良い集約ルールを社会全体の意思決定に用いる事で、我々の意思が反映される社会が実現されるのです。

本講義では、社会選択論を基礎として、様々な集約ルールを紹介し、それらの特徴を解説していきます。最終的に日本の憲法改正要件に関して、理論的に考えていきます。

到達目標

様々な集約ルールを理解し、実際に意見集約の際に最適な集約ルールを用いる事が出来るようになる。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習して下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	順序関係と選好
		2	選好関係
		3	選択構造
		4	独立投票モデル
		5	ペア敗者基準
		6	スコアリングルール
		7	小テスト(1)
		8	ペア勝者基準
		9	多数決ルール
		10	コンドルセ・ヤングの最尤法
		11	マルケヴィッチの反例
		12	オストロゴルスキーのパラドックス
		13	単峰性と中位投票者定理
		14	憲法改正を考える
		15	小テスト(2)

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	40%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か-』,坂井豊貴著, 岩波新書
関連のある授業科目	経済学 I、総合政策論、経済統計
資格等	なし

科目名

国際経済論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

宇野木 広樹

実務経験

授業の概要

現在、世界的に所得と資産の格差が拡大してきている。このままでは、富めるものはますます富み、貧しいものはますます貧しくなるのか。この事を考える為に、所得と資産の格差が起こるメカニズムを理論とデータを用いて説明していきます。また、近年急速に経済成長してきているBRICsの状況を解説していきます。

到達目標

所得・資産格差の発生メカニズムを理解するとともに、近年の国際事情を理解する。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	所得・資産格差の拡大
		2	所得格差拡大の原因(1)
		3	所得格差拡大の原因(2)
		4	所得格差拡大の原因(3)
		5	所得格差拡大の原因(4)
		6	所得格差拡大の原因(5)
		7	サブプライムローン問題
		8	欧州金融危機
		9	中華人民共和国(1)
		10	中華人民共和国(2)
		11	インド
		12	ロシア
		13	ブラジル
		14	まとめ
		15	まとめ

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題をアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題の模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『21世紀の資本』, トマ・ピケティ著, 山形浩生他訳, みすず書房
関連のある授業科目	経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計
資格等	なし

科目名

総合政策論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／選択必修》

担当者

宇野木 広樹

実務経験

授業の概要

現在の日本経済は、長期に渡る経済不況、労働状況の悪化、社会保障費の増大、財政赤字の増加、急速に進む少子高齢化など、様々な問題を抱えている。これらの問題はそれぞれが密接な関係を持っており、問題解決のためには幅広い分野の知識が必要である。本講義では、日本経済が抱える問題を明らかにするとともに、その問題に対する解決策を解説する。

到達目標

総合政策の目的と課題を理解し、様々な問題に対する政策を理解する。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	我が国の財政状況		
2	日本銀行の機能と円高円安の影響		
3	21世紀の日本		
4	人口高齢化、社会保障、経済成長の関係性		
5	社会保障制度		
6	社会保障制度の歴史		
7	公的年金の特徴		
8	公的年金の仕組み		
9	日本の医療保険の仕組みと歴史		
10	医療サービス市場の特殊性		
11	プレミアム付き商品券		
12	衆議院・参議院選挙		
13	男女共同参画		
14	まとめ		
15	まとめ		

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題をアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題の模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『福祉の総合政策』, 駒村康平著, 創成社
関連のある授業科目	経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計
資格等	なし

科目名

ファイナンシャル・プランニング I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

宇野木 広樹

実務経験

授業の概要

我々の生活において必ず必要なものは「お金」です。そしてこの「お金」をどのように使っていくのかで我々の生活は大きく変わります。人生のどのような場面・タイミングでどのようにお金を使うのかという事は悩ましい問題です。「年金」、「保険」、「株式・預貯金などの金融資産」、「税金」、「不動産」、「相続」などに共通するものは「お金」であり、この「お金」の悩みに答えるのが、ファイナンシャル・プランナーという専門家です。

本講義では、ファイナンシャル・プランナーとして必要な知識の中で、「ライフプランニングと資金計画」と「リスクマネジメント」について解説していきます。

ファイナンシャル・プランナー3級試験に出題される、「ライフプランニングと資金計画」と「リスクマネジメント」に関する問題を解けるようになる。

到達目標

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	○
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	ファイナンシャル・プランナーと倫理
		2	ライフプランニングの手法
		3	ライフプラン策定上の資金計画
		4	社会保険
		5	公的年金の全体像
		6	公的年金の給付
		7	企業年金など
		8	年金と税金
		9	小テスト1
		10	保険の基本
		11	生命保険
		12	損害保険
		13	第三分野の保険
		14	小テスト2
		15	まとめ

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	40%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『みんなが欲しかった！FPの教科書('21-'22年版)』, 滝沢ななみ, TAC出版
参考文献・推薦図書	『みんなが欲しかった！FPの問題集('21-'22年版)』, 滝沢ななみ, TAC出版
関連のある授業科目	ファイナンシャル・プランニングⅡ、ファイナンシャル・プランニングⅢ
資格等	ファイナンシャル・プランニング3級取得に関連

科目名

ファイナンシャル・プランニングⅡ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

宇野木 広樹

実務経験

授業の概要

我々の生活において必ず必要なものは「お金」です。そしてこの「お金」をどのように使っていくのかで我々の生活は大きく変わります。人生のどのような場面・タイミングでどのようにお金を使うのかという事は悩ましい問題です。「年金」、「保険」、「株式・預貯金などの金融資産」、「税金」、「不動産」、「相続」などに共通するものは「お金」であり、この「お金」の悩みに答えるのが、ファイナンシャル・プランナーという専門家です。

本講義では、ファイナンシャル・プランナーとして必要な知識の中で、「金融資産運用」と「タックスプランニング」について解説していきます。

ファイナンシャル・プランナー3級試験に出題される、「金融資産運用」と「タックスプランニング」に関する問題を解けるようになる。

到達目標

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	○
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	金融・経済の基本
		2	セーフティネットと関連法規、貯蓄型金融商品
		3	債券
		4	株式
		5	投資信託
		6	外貨建て金融商品、金融商品と税金
		7	ポートフォリオとデリバティブ取引
		8	小テスト1
		9	所得税の基本
		10	各所得の計算
		11	課税標準の計算
		12	所得控除
		13	税額の計算と税額控除
		14	所得税の申告と納付、個人住民税、個人事業税
		15	小テスト2

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	40%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『みんなが欲しかった！FPの教科書('21-'22年版)』, 滝沢ななみ, TAC出版
参考文献・推薦図書	『みんなが欲しかった！FPの問題集('21-'22年版)』, 滝沢ななみ, TAC出版
関連のある授業科目	ファイナンシャル・プランニングⅡ、ファイナンシャル・プランニングⅢ
資格等	ファイナンシャル・プランニング3級取得に関連

科目名

データ分析

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

世の中にはたくさんのデータがあります。それらのデータを上手く活用する事で様々な関係性が分かってきます。しかし、データを上手く活用するためには適切な分析方法を理解し、使いこなす必要があります。本講義ではデータを分析するための様々な手法を解説し、EXCELを用いて分析を行っていきます。

到達目標

様々なデータ分析手法を理解し、EXCELで分析を行う事が出来るようになる。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	○
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	平均と分散
		2	信頼区間
		3	散布図と相関
		4	相関係数
		5	無相関検定
		6	回帰直線
		7	偏相関
		8	重回帰
		9	相関行列
		10	因子分析
		11	カイ2乗検定
		12	t検定(対応なし)
		13	t検定(対応あり)
		14	分散分析(1要因)
		15	分散分析(2要因)

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題をアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題の模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『統計学がわかる-ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学-』 向後千春、富永敦子著 技術評論社 『統計学がわかる-回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、“関係”の統計学』 向後千春、富永敦子著 技術評論社
関連のある授業科目	コンピュータリテラシー
資格等	なし

科目名

介護過程 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の意義と基礎について概説する。
 ・介護過程の展開について概説する。
 ・事例を活用しながらアセスメントについて概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

①介護過程の意義と基礎について理解することができる。
 ②生活支援の考え方と介護過程の必要性が理解することができる。
 ③ICFの考え方について理解することができる。
 ④介護過程の展開のプロセスについて事例をもとに理解できる。
 ⑤介護を提供するためのアセスメントの必要性を理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
 ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護過程の意義と基礎的理解	介護過程の意義・目的
2		介護過程とICF
3		
4		生活支援における介護過程の意義
5		
6		
7		介護過程の展開を支える考え方
8		
9		アセスメントとは
10		意図的な情報収集
11	介護過程の展開の理解～事例検討	情報の分析、ニーズの明確化・課題の抽出
12		アセスメント事例①
13		アセスメント事例②
14		アセスメント事例③
15		事例を基にアセスメント表を作成する

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 第2版 中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の展開について概説する。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

①介護過程の意義と基礎について理解できる。
②介護過程の展開について理解できる。
③介護実習 I aにおける介護過程の実践の振り返りができる。
④介護実習 I bにおける介護過程の実践の取り組みができる。
⑤アセスメント・計画立案の方法を理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」を読んでおくこと。
・授業時に使用した配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1		アセスメント(意図的な情報収集、分析・ニーズの明確化・課題の抽出)
2		
3	介護過程の意義と基礎的理解	介護計画の立案と実施
4		
5		
6	介護過程の展開の理解～アセスメント表の作成	アセスメント表作成の実際
7		
8		
9		
10	介護過程の展開の理解～計画立案	アセスメント表を参考に計画立案をする
11		
12		
13		
14	介護過程の展開の理解～事例研究	実習における実践報告
15		事例研究

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 第2版 中央法規出版、実習のしおり	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」 学文社
関連のある授業科目	資格等
介護実習、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅲ

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の意義と基礎について理解できる。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

- ①介護過程の実践を理解できる。
- ②アセスメントや計画立案の実際が理解できる。
- ③介護実習 I bの介護過程の実践の振り返りができる。
- ④介護実習 I cの介護過程の実践の取り組みと振り返りができる。
- ⑤介護実習 IIの介護過程の実践の取り組みができる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		回	
1	介護過程の意義と基礎的理解	16	介護過程の展開の理解～事例
2		17	
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11	介護過程の展開の理解～実践報告と事例研究①	26	介護過程の展開の理解～実践報告と事例研究②
12		27	
13		28	
14		29	
15	介護過程の展開の理解～事例	30	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度および提出物(20%)、レポート(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 第2版 中央法規出版	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版 ・「ICFをとり入れた介護過程の展開」建帛社
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の実践的展開について概説する。
 ・介護過程とチームアプローチについて概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

①様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解することができる。
 ②介護実習Ⅱでの介護過程の実践を振り返ることができる。
 ③チームアプローチにおける介護福祉士の役割について理解することができる。

事前事後学習

事前にテキスト「介護過程」の該当箇所を読んでおくこと。
 授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護過程の展開の理解	受け持ち担当者を見つめ直し、アセスメント、計画立案、実施・評価・修正の一連の方法を習得する
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	介護過程とチームアプローチ	介護過程と介護サービス計画(ケアプラン)、訪問介護計画等の関係
9		
10		多職種連携における介護過程の意義
11		
12		ケースカンファレンスの展開と進行の方法(ロールプレイ)
13		
14		サービス担当者会議での情報提供の方法(ロールプレイ)
15		

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 第2版 中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」 学文社
	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

コミュニケーション技術 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松本末信(11)・小野尚寿(4)

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護を必要とする方とのコミュニケーションの基本について概説する。
・介護における家族とのコミュニケーション技法について概説する。
・障害の特性に応じたコミュニケーション技法について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ①介護を必要とする方とのコミュニケーションの基本について説明できる。
- ②適切なコミュニケーションの実践ができる。
- ③様々なコミュニケーション障害のある利用者を理解できる。
- ④レクリエーションを通しコミュニケーションの工夫ができる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護を必要とする人とのコミュニケーション(松本)	介護におけるコミュニケーションの基本
2		コミュニケーションの基本技術①
3		コミュニケーションの基本技術②
4		目的別や集団におけるコミュニケーション技術
5	介護における家族とのコミュニケーション(松本)	家族との関係づくり
6		家族への助言・指導・調整
7		家族関係と介護ストレスへの対応
8	施設レクリエーション(松本)	レクリエーションの実際とコミュニケーションのあり方
9		
10	在宅レクリエーション(松本)	
11		
12	障害の特性に応じたコミュニケーション～聴覚障害(小野)	聴覚障害がある方とのコミュニケーション
13		手話をやってみよう
14		
15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術」第2版 中央法規出版	「七訂 介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、認知症の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

コミュニケーション技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

古澤鉄太郎(11)・中村久美(4)

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・障害の特性に応じたコミュニケーション技法について概説・習得する。
 ・介護におけるチームのコミュニケーションについて概説・習得する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。

到達目標

①障害の特性に応じたコミュニケーションを学び、様々な障害のある利用者を理解することができる。
 ②介護におけるチームのコミュニケーションについて理解することができる。
 ③記録の種類と管理について理解すると共に、会議の重要性を理解することができる。
 ④プロセスレコードについて学び、自己覚知と他者理解によって関係が深まっていく過程を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
 ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	項目・内容
1	障害の特性に応じたコミュニケーション～視覚障がい～(中村)
2	
3	
4	
5	介護におけるチームのコミュニケーション～記録による情報の共有化について～(松本)
6	
7	
8	
9	
10	
11	介護におけるチームのコミュニケーション(松本)
12	
13	
14	
15	

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成校座 第5巻 コミュニケーション技術」第2版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・
松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、
橋本 病院に勤務:篠原

授業の概要

介護実習 I aの実習を充実したものにすため、記録の書き方、研究の準備、介護技術の確認等を学ぶ。また、身だしなみ等、実習に必要な姿勢も同時に学ぶ。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
・他科目での学びの統合化について概説する。
・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①各領域で学んだ知識と技術の統合ができ介護実践につなげることができる。
- ②介護実習について理解できる。
- ③実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備しておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1		介護実習の意義と目的
2	知識と技術の統合～介護実習で何を学ぶのか	介護実習の種類
3		実習前後の学びと活かし方
4	知識と技術の統合～介護実習とは	介護福祉士資格取得までの道筋
5	知識と技術の統合～介護実習 I aについて	通所介護・通所リハビリテーションの機能と役割を知る
6	知識と技術の統合～介護実習を知る	2年生の介護実習体験者の体験談を聴講する
7		実習先の説明
8		施設概要の書き方・作成
9		実習目標の説明
10		実習目標の作成
11	介護実習 I a へ向けて実習準備	自己紹介書、個人情報に関する誓約書記入
12		実習日誌の書き方について①
13		実習日誌の書き方について②
14		
15		記録物等の準備、実習説明会の開催、及び個人面接

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原
淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

介護実習Ⅰbの実習を充実したものにするため、実習Ⅰaをまとめ、発表し、介護実習Ⅰbの自己課題や研究テーマを明確にし、介護保険施設に向けた準備を行う。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
・他科目での学びの統合化について概説する。
・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	項目・内容	内容
1	知識と技術の統合～介護実習Ⅰaの振り返り	お礼状作成、提出物の確認
2		介護実習Ⅰa報告書の作成①
3		介護実習Ⅰa報告書の作成②
4		介護実習Ⅰa報告書の作成③
5	介護実践の科学的探究～介護研究を知る	2年生の介護研究発表会の聴講
6	知識と技術の統合～介護実習報告会Ⅰa	自己の実習を報告する
7		
8	知識と技術の統合～介護実習Ⅰb実習準備	介護実習Ⅰbについて
9		実習先の説明
10		施設概要の書き方・作成
11		実習目標の説明
12		実習目標の作成
13		自己紹介書、個人情報に関する誓約書記入
14		
15	記録物等の準備、実習説明会の開催、及び個人面接	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座」第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、橋本 病院に勤務:篠原

授業の概要

介護実習Ⅰbのまとめを行うとともに、介護実習Ⅰcと介護実習Ⅱへ向けて事例発表の方法、自己課題を明確にする。また、自分の将来を考えた職業の選択も考える。
 (注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ④家族・職員とのコミュニケーションの在り方を理解できる。

事前事後学習

随時指示する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	項目・内容	学習成果
1	知識と技術の統合～介護実習Ⅰbの振り返り	お礼状の作成・提出物の確認、報告書のまとめ
2	知識と技術の統合～介護実習Ⅰb発表会	介護実習Ⅰbで学んだことを発表する
3		介護実習Ⅰcについて(実習先の説明、概要を知る)
4	知識と技術の統合～介護実習Ⅰc実習準備	実習目標の作成
5		施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ
6		お礼状の作成・提出物の確認
7	知識と技術の統合～介護実習Ⅰcの振り返り	報告書のまとめ①
8		報告書のまとめ②
9		介護実習Ⅱについて
10		実習先の説明、実習先の概要を知る、実習目標の説明
11		実習目標の作成
12	知識と技術の統合～介護実習Ⅱ実習準備	個人紹介書・個人情報に関する誓約書
13		個人紹介書・個人情報に関する誓約書
14		施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ①
15		施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ②

成績評価基準及び方法

学習態度及び実技テスト(80%)、レポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とし、介護実習Ⅱのまとめ・発表を行い、事例発表の方法、2年間の介護実習を統括しまとめる。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
(授業の目的、ねらい)
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。(希望者のみ)
- ③実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ⑤介護福祉士としての求められる資質を身につける。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1		お礼状の作成と提出物の確認
2	知識と技術の統合～介護実習Ⅱのまとめ	報告書の作成①
3		報告書の作成②
4		報告書の作成③
5	知識と技術の統合～介護実習Ⅱの発表	介護実習Ⅱにて学んだことを発表する
6		
7	知識と技術の統合～介護の日の活動	活動を通じて自己の進路を模索する
8	介護実践の科学的探究～2年間の実習の振り返り	研究の意義と目的
9		研究方法の理解
10		
11		倫理的配慮
12		研究内容の作成
13		
14		
15	研究内容の発表	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習 I a

《2単位(実習)／経営福祉学科1年前期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・
松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

本実習では、訪問介護事業所と通所介護事業所で計12日間の実習を実施するものとする。
(授業の目的、ねらい)
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得することを目的とする。
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ①本学の書式を活用し、受け持ち利用者のアセスメントの方法が理解できる。
- ②介護技術の確認を行い、様々な技術を身につける。
- ③多職種協働の実践や関係機関との連携を理解する。
- ④介護福祉士の役割について理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

介護保険下のもと展開される在宅サービスの中での実習を行う。	◆期日 1年次:8月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
	◆実習先 ①訪問介護(3日間) ②通所介護(11日間)
	◆目標 ①本学の書式を活用し、受け持ち利用者のアセスメントの方法が理解できる。 ②介護技術の確認を行い、様々な技術を身につける。 ③多職種協働の実践や関係機関との連携を理解する。 ④介護福祉士の役割について理解する。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程、介護総合演習など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習 I b

《2単位(実習)／経営福祉学科1年後期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原
淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、橋本 病
院に勤務:篠原

授業の概要

本実習では、特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設のうち、いずれか1つの施設で合計12日間の実習を行うものとする。
(授業の目的、ねらい)
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得することを目的とする。
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ①受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画、実施といった介護過程の実践的展開ができる。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療職と介護職の役割の違いについて理解する。
- ④在宅復帰に向けた支援を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

	<p>介護過程の実践的展開と介護技術の実践を軸とした介護実習をおこなう。</p>	<p>◆期日 1年次:2月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)</p> <p>◆実習先 特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設</p> <p>◆目標【第1週】 ①施設のスケジュールを把握すると共に、日常生活上の介護技術を習得する。 ②実習指導者の指導を受け、受け持ち者のアセスメント、計画の作成を行う。</p> <p>◆目標【第2週】 ③介護計画に基づく実施を展開する。 ④関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。 ⑤医療職と介護職の役割の違いについて理解する。 ⑥在宅復帰に向けた支援を理解する。</p>
--	--	---

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のし	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習 I c

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務：久保、黒木、松本、橋本
病院に勤務：篠原

授業の概要

老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所のうちいずれかの施設で合計12日間の実習を行うものとする。
(授業の目的、ねらい)
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得することを目的とする。
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程の実践的展開ができる(アセスメント・介護計画の作成、実施、評価)。
- ② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。
- ③ 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。
- ④ 利用者の個別性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

	介護過程の実践的展開と介護技術の実践を軸とした介護実習をおこなう。	◆期日 2年次:6月～7月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
		◆実習先 老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所
		◆目標【第1週】 ① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程の実践的展開ができる(アセスメント・介護計画の作成)。 ② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。 ③受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画を作成する。
		◆目標【第2週】 ① 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。 ② 利用者の個別性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。 ③受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画に基づく実施、評価といった介護過程の展開を行う。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習Ⅱ

《4単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、黒木、松本、橋本 病院に勤務:篠原

授業の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。実習は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設で23日間行う。

(授業の目的、ねらい)

・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養い、自立支援の観点から介護実践ができる能力を学ぶ。また、ご利用者やご家族等に対する精神的支援や援助のために実践的なコミュニケーション能力を身につけ、多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程の展開できる能力を養い、ご利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を習得する。

到達目標

- ①受け持ち担当者に対して、アセスメントを行い、短期入所のイメージで個別介護計画を作成、モニタリングを行い、計画の修正を行うといった、一連の介護過程の実践的展開をする。
- ②関係機関との連携やチームケアの実践を把握する。
- ③医療と介護の区別や違いを理解する。
- ④地域における生活支援の実践を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

高齢者施設の介護現場で実習を行う	◆期日 2年次:9月～10月(23日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
	◆実習先 特別養護老人ホームもしくは介護老人保健施設
	◆目標【第1週】 ①施設の概要、機能、役割、1日のスケジュール等を理解する。 ②実習指導者の指導を受け、受け持ち担当者のアセスメントを行う。
	◆目標【第2週～第5週】 ①利用者に提供される日常生活上の介護技術を習得する。 ②日常生活上の不自由を有する人への介護・援助方法を習得する。 ③受け持ち担当者の個別援助計画を立案、実施し、モニタリングの結果、必要であれば計画の見直しを行う。 ④関係職種との役割と連携方法を習得する。 ⑤地域における生活支援の実践や施設の役割を学び、家族への支援、地域ケアの展開方法を学ぶ。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」第2版中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

色彩学

《2単位(講義)／全学科前期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

ユニバーサルデザインの視点から色彩とは何かを理解するとともに色彩設計および配色デザインを理解し、色覚の多様性に配慮した、誰もが見やすい色の使い方をアドバイスできる能力を習得する。

到達目標

色彩検定協会認定UCアドバイザー資格を取得できる能力を身につける。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に課題を提出してもらう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	○
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	色のユニバーサルデザイン	1	
2	色が見えるしくみ1	2	
3	色が見えるしくみ2	3	
4	色が見えるしくみ3	4	
5	色の表し方1	5	
6	色の表し方2	6	
7	色の表し方3	7	
8	色覚のタイプによる色の見え方	8	
9	高齢者の見え方	9	
10	色のUDの進め方1	10	
11	色のUDの進め方2	11	
12	色彩検定UD級対策1	12	
13	色彩検定UD級対策2	13	
14	色彩検定UD級対策3	14	
15	まとめ	15	

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法	学習支援ポータル上にて行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他(確認テスト)	70%	その他	

テキスト	『色彩検定公式テキストUC級』日本色彩研究所、色彩検定協会
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	
資格等	色彩検定協会認定UCアドバイザー資格

科目名

プログラミング演習

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

現在、スマートフォンの急速な普及によりモバイルサイトの重要性が高まってきている。本講義では、webプログラミングを通じて、初歩的なプログラミング技術を習得するとともにモバイルサイトを構築するために必要な知識と技術を習得する。

到達目標

webプログラミング言語であるjavascriptを用いて、簡易なモバイルサイトが構築できる。

事前事後学習

プログラミングの演習にはキーボード操作が必要不可欠です。キーボード入力が苦にならないようにしっかりとキーボード練習をしてください。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	○
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	モバイルサイト構築のための開発環境	16	ペンションサイトのシステム設計
2	HTML5概要	17	買い物かご機能の搭載1
3	HTMLの基本	18	買い物かご機能の搭載2
4	CSSの基本	19	予約システム機能の搭載1
5	javascriptの基本	20	予約システム機能の搭載2
6	jQueryMobileの基本	21	ペンションサイトの制作1
7	eビジネスとは	22	ペンションサイトの制作2
8	オンラインショッピングサイトのシステム設計	23	ペンションサイトの制作3
9	オンラインショッピングサイトの制作1	24	ペンションサイトの制作4
10	オンラインショッピングサイトの制作2	25	ペンションサイトの制作5
11	オンラインショッピングサイトの制作3	26	ペンションサイトの制作6
12	オンラインショッピングサイトの制作4	27	ペンションサイトの制作7
13	オンラインショッピングサイトの制作5	28	jQueryMobileのカスタマイズ1
14	オンラインショッピングサイトの制作6	29	jQueryMobileのカスタマイズ2
15	オンラインショッピングサイトの制作7	30	jQueryMobileのカスタマイズ3

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法	学習支援ポータル上にて行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他(確認テスト)	70%	その他	

テキスト	学習支援ポータル上に配置
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	コンピュータリテラシー
資格等	なし

科目名

経営学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科 1年前期 選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

今日、企業を取り巻く環境はますます厳しくなっている。貿易摩擦、リストラ、環境に対する企業責任、不良債権処理など、企業の個別対応だけでは解決できない課題が山積の状況である。しかし、企業は存続、維持されるべき宿命を負わされている。そこで、経営学 I の講義でこれらの諸問題解決の糸口を理解してもらいたい。

到達目標

資本主義社会における会社の役割、企業の国際化、これからの企業の社会的責任に対する理解を深める。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	○
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	企業の意義と役割①資本主義社会と社会主義社会	1	
2	企業の意義と役割②大企業と中小企業の区別	2	
3	企業の歴史①企業発展の歴史	3	
4	企業の歴史②生・家業、人的私企業	4	
5	企業の歴史③資本的私企業	5	
6	企業の歴史④現代企業	6	
7	企業の国際化①国際化の意義・動機	7	
8	企業の国際化②国際化の課題	8	
9	企業の国際化③経営資源の移転戦略	9	
10	企業の国際化④金融危機の問題	10	
11	会社形態 合名・合資・有限・株式	11	
12	株式会社①株式の意味	12	
13	株式会社②株式会社の現代の特徴	13	
14	株式会社③株式会社のガバナンス	14	
15	株式会社④株式会社の長所・短所	15	

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験	70%		ディスカッション	
レポート	15%		プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%		教室外学習	
その他			その他	

テキスト	「ゼミナール経営学入門」 伊丹・加護野著 日本経済新聞社
参考文献・推薦図書	配布資料
関連のある授業科目	経営学Ⅱ
資格等	なし

科目名

経営学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科 1年後期 選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

経営学Ⅰにおいて学んだ経営学に対する基礎的理解を前提にして、今日の経営学の課題に積極的に挑戦してみたい。

到達目標

人はなぜ働くか、について人の欲求にまで深めて理解する。また会社側および働く側双方から、働く意欲(インセンティブ)の意味を考える。さらに、日本的経営について、これまでとこれからについて理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	○
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	人の欲求① マズローの欲求・生理的欲求、安全欲求
2		2	人の欲求② マズローの欲求・愛情欲求、尊厳欲求
3		3	人の欲求③ マズローの欲求・自己実現欲求
4		4	組織のインセンティブ①物的インセンティブ
5		5	組織のインセンティブ②評価的インセンティブ
6		6	組織のインセンティブ③理念的インセンティブ
7		7	組織のインセンティブ④自己実現的インセンティブ
8		8	企業文化①企業文化とは
9		9	企業文化②活力ある企業文化
10		10	企業文化③澱んでいる企業文化
11		11	日本的経営①日本的経営とは
12		12	日本的経営②終身雇用
13		13	日本的経営③年功主義
14		14	日本的経営④企業別組合・社内教育
15		15	経営学Ⅱのまとめ

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート	15%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「ゼミナール経営学入門」伊丹・加護野著 日本経済新聞社
参考文献・推薦図書	配布資料
関連のある授業科目	経営学 I
資格等	なし

科目名

会計学

《4単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

企業の会計はお金の処理から始まり、財務諸表(貸借対照表・損益計算書等)の作成へと続く一連の手続きである。この会計手続きの流れを把握し、財務諸表を作成する力、財務諸表を理解する力を講義を通じて身につけてもらいたい。

到達目標

それぞれの会社において作成される財務諸表の内容を理解できる力を身につける。財政状態を表す貸借対照表・収益力を表す損益計算書の内容を理解する力である。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を事前によく読んでおくこと。ホワイトボードの板書したことをノートに取り整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	○

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	会計の構造① 財務計算の意味	16	貸借対照表原則②繰延資産の会計処理 I
2	会計の構造② 損益計算の意味	17	貸借対照表原則③繰延資産の会計処理 II
3	会計の目的①会計の目的とは?	18	財務諸表の理解①収益力を見る I
4	会計の目的②財務諸表の意味	19	財務諸表の理解②収益力を見る II
5	会計公準 会計公準とは?	20	財務諸表の理解③資本収益率を見る。
6	一般原則①真実性の原則	21	財務諸表の理解④金利支払い能力 I
7	一般原則②正規の簿記の原則	22	財務諸表の理解⑤金利支払い能力 II
8	一般原則③継続性の原則	23	財務諸表の理解⑥損益分岐点の理解 I
9	一般原則④明瞭性の原則	24	財務諸表の理解⑦損益分岐点の理解 II
10	一般原則⑤単一性の原則	25	財務諸表の理解のまとめ
11	一般原則⑥保守主義の原則	26	財務諸表の作成①試算表 I
12	損益計算書原則①発生主義の原則	27	財務諸表の作成②試算表 II
13	損益計算書原則②実現主義の原則	28	財務諸表の作成③精算表 I
14	損益計算書原則③費用収益対応の原則③	29	財務諸表の作成④精算表 II
15	貸借対照表原則①貸借対照表3原則	30	財務諸表の作成まとめ

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験	70%		ディスカッション	
レポート	15%		プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%		教室外学習	
その他			その他	

テキスト	{財務会計講義}桜井久勝 中央経済社
参考文献・推薦図書	「財務会計の原理」宇南山英夫編著 税務経理協会
関連のある授業科目	簿記・簿記演習
資格等	なし

科目名

相続税法

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

民法に定める相続に関する基礎知識について解説する。
相続税の基本的な計算のしくみについて解説する。

到達目標

民法に定める相続に関する基礎知識(相続・法定相続人・法定相続分・遺留分・遺言等)を理解し、相続税の基本的な計算のしくみが理解できるようになること。

事前事後学習

授業計画におけるテキストの該当箇所を事前に読み、授業中に板書したことをノートにとり、理解が出来なかった点を確認し、質問するように努めること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	○
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	相続の基礎知識Ⅰ(承認・放棄)
3		3	相続の基礎知識Ⅱ(法定相続人・法定相続分)
4		4	相続の基礎知識Ⅲ(遺留分・遺言書)
5		5	贈与税と相続税の関係
6		6	相続税の計算のしくみⅠ(申告期限と申告方法)
7		7	相続税の計算のしくみⅡ(相続財産)
8		8	相続税の計算のしくみⅢ(みなし相続財産)
9		9	相続税の計算のしくみⅣ(基礎控除)
10		10	相続税の計算のしくみⅤ(財産評価)
11		11	相続税の計算のしくみⅥ(小規模宅地の特例)
12		12	相続税の計算のしくみⅦ(配偶者の税額軽減)
13		13	相続税の計算のしくみⅧ(相続時精算課税)
14		14	納付税額の計算Ⅰ(各種税額控除)
15		15	納付税額の計算Ⅱ(税額計算)

授業外学習内容とその時間	授業前予習30分、復習30分		
課題のフィードバック方法	事業計画にあるそれぞれのテーマについて説明を進める。ポイントをしっかり押さえて理解する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	15%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習	
その他		その他 ケースメソッド	有

テキスト	新くらしの税金百科 2020～2021 清文社
参考文献・推薦図書	なし
関連のある授業科目	所得税法
資格等	なし

科目名

税理事務実習

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中／選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

会計処理の実務を実際に体験することにより、会計の専門知識と会計処理能力を身につける。

税理事務実習の目的

- ①会計処理の実際に触れ、将来の職業会計人としての素養を身に着ける。
- ②基本的な技能を実習先にて実際に応用し、生きた知識を身につける。

到達目標

簿記・会計学・所得税等、会計および税については、講義を通じて学ぶことになっているが、現実の社会における会計実務の流れを体験する。

事前事後学習

実習前指導と実習後の評価表による指導を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
	・実習の内容		
	①計算実務、②帳簿・伝票の貴重		
	③データ入力、④説客・接遇		
	⑤文書実務		
	・実習の選考基準		
	①税務・会計分野に所属するもの		
	②つぎの科目から3科目以上履修したもの		
	◆簿記		
	◆簿記演習		
	◆会計学		
	◆所得税法		
	◆相続税法		
	・実習期間		
	8月(12日間)		

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他(実習)	70%	その他	

テキスト	なし
参考文献・推薦図書	会計学及び簿記テキスト
関連のある授業科目	簿記・簿記演習・会計学・所得税法・相続税法
資格等	なし

科目名 **ファイナンシャルプライニングⅢ**
 《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中／選択必修》

担当者 **川井健次** 実務経験

授業の概要 我々の生活において必ず必要なものはお金です。そしてこのお金をどのように使っていくかで我々の生活は大きく変わります。「不動産」、「相続」に関するお金の悩み答えるのが、ファイナンシャル・プランナーです。本講義では、「不動産」と「相続」について解説します。

到達目標 ファイナンシャル・プランナー3級試験に出題される、「不動産」と「相続」について解説します。

事前事後学習 各回のテーマに示されている問題に沿って、わかりやすく解説します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	不動産の基本
		2	不動産取引
		3	不動産に関する法令
		4	不動産の税金
		5	不動産の有効活用
		6	小テスト
		7	相続の基本
		8	相続税①
		9	相続税②
		10	相続税の計算①
		11	相続税の計算②
		12	贈与税
		13	贈与税の計算
		14	資産のまとめ
		15	小テスト

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	15%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習	
その他(実習)		その他	

テキスト	みんなが欲しかった！FPの教科書('21-'22年版)TAC出版
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	相続税法 法学Ⅰ、法学Ⅱ
資格等	なし

科目名

建築CAD

《1単位(演習)／全学科後期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

2次元汎用CADソフト「jw-cad」を使用して、CADの基本操作を学ぶとともにCADを利用したさまざまな成果物を制作する。また、建築製図の基本も同時に学ぶ。

到達目標

設計者からの指示に従いCADで建築設計図を描くことができる。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に数回の成果物を提出してもらう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	○
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	jw-cadを使うための準備、建築製図の基本
2		2	会場案内図の制作1
3		3	会場案内図の制作2
4		4	住宅間取り図の制作1
5		5	住宅間取り図の制作2
6		6	オフィスレイアウトの制作1
7		7	オフィスレイアウトの制作2
8		8	階段平面図の制作1
9		9	階段平面図の制作2
10		10	階段平面図の制作3
11		11	通り芯・寸法・通り芯記号1
12		12	通り芯・寸法・通り芯記号2
13		13	柱・壁・窓・間仕切壁1
14		14	柱・壁・窓・間仕切壁2
15		15	建具

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法	学習支援ポータル上にて行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他(確認テスト)	70%	その他	

テキスト	学習支援ポータル上に配置
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	
資格等	建築CAD検定3級

情報ビジネス論 I

《2単位(講義)／情報福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

村上 亜由美

実務経験

航空会社に勤務

授業の概要

日本のしきたりやマナーの歴史を学び社会人として、国際人としてのマナーを理解し、堂々と振る舞えるように学んでいく。又、会社の仕組みを知り、仕事をの進め方、ビジネスコミュニケーションのルールを学ぶ。実践を通し訓練を繰り返すことで社会人としての心構え、就職活動に役立つスキルを身につける。

到達目標

社会人として、国際人として、マナーとは何か。歴史、しきたり、意味を理解する。社会人として身につけた基礎知識を実践し、自信を持って社会の為、自己実現のために高い成果を達成できる人材になる。

事前事後学習

随時資料を配布します。資料をよく読み理解を深める事。必要に応じて「働く若者のハンドブック」を活用します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション	16	
2	マナーとは何か、歴史と意味	17	
3	国際人としてのマナー	18	
4	社会人に必要なマナー	19	
5	社交の場でのコミュニケーション	20	
6	会社の仕組み	21	
7	仕事の進め方	22	
8	電話対応のマナー	23	
9	来客対応のマナー	24	
10	ビジネス文書のルール ①書面	25	
11	②電子メール他	26	
12	食事のマナー (和・洋・中)	27	
13	しきたり、慣習について	28	
14	日本の文化について	29	
15	まとめ レポート作成	30	

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	50%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	なし
参考文献・推薦図書	働く若者のハンドブック 熊本県雇用環境整備協会
関連のある授業科目	なし
資格等	なし

情報ビジネス論Ⅱ

《2単位(講義)／情報福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

村上 亜由美

実務経験

航空会社に勤務

授業の概要

日本のしきたりやマナーの歴史を学び社会人として、国際人としてのマナーを理解し、堂々と振る舞えるように学んでいく。又、会社の仕組みを知り、仕事の進め方、ビジネスコミュニケーションのルールを学ぶ。実践を通し訓練を繰り返すことで社会人としての心構え、就職活動に役立つスキルを身につける。

到達目標

社会人として、国際人として、マナーとは何か。歴史、しきたり、意味を理解する。社会人として身につけた基礎知識を実践し、自信を持って社会の為、自己実現のために高い成果を達成できる人材になる。

事前事後学習

随時資料を配布します。資料をよく読み理解を深める事。必要に応じて「働く若者のハンドブック」を活用します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	授業オリエンテーション
2		2	第一印象
3		3	身だしなみ
4		4	挨拶
5		5	発声法 (声のマナー)
6		6	お辞儀の仕方
7		7	お辞儀の仕方(実践)
8		8	歩き方 座り方
9		9	丁寧な言葉遣い
10		10	企業研究の取り組み方
11		11	自己PRの作成
12		12	就職活動について
13		13	面接練習
14		14	模擬面接、評価
15		15	まとめ レポート作成

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	50%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	なし
参考文献・推薦図書	働く若者のハンドブック 熊本県雇用環境整備協会
関連のある授業科目	なし
資格等	なし

科目名

英語応用

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期》

担当者

村橋哲也

実務経験

授業の概要

1年時より学んだ文法を確実に身につけ、それらを実戦に活かすために、英文を読み、日本語、英語で要約をする。英文の読解力だけでなく、自らの考えを英語で表現する練習をしていく。

到達目標

自らの考えを表現できるように英文法や様々な英語表現を学び、総合的な英語力を養う。そうすることによって、読む、書く、話すなど実践的英語力を身につける。

事前事後学習

単語や文法の復習をする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	シラバスの説明、自己紹介など	16	
2	文法復習、スラッシュReading	17	
3	疑問詞 & スラッシュリーディング	18	
4	不定詞 & Reading	19	
5	動名詞 & Reading	20	
6	第1回文法テスト	21	
7	助動詞 & Reading	22	
8	比較級、最上級 & Reading	23	
9	受動態 & Reading	24	
10	現在完了形 & Reading	25	
11	関係代名詞 & Reading	26	
12	第2回文法テスト	27	
13	文法復習 & Reading1(文章読解)	28	
14	文法復習 & Reading2(文章読解)	29	
15	映画鑑賞	30	

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	ユメブンの 監修・執筆 木村達哉、佐藤仁志 アルク
参考文献・推薦図書	なし
関連のある授業科目	英語基礎
資格等	なし

科目名

心理学

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／介護必修》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

私たちは、高齢者への道を歩み続けている。介護福祉に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。
緊急に解決すべき課題が生じた場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	オリエンテーション。人は見かけで決まるか
2	本当の私とはⅠ 自尊感情
3	本当の私とはⅡ 感情と健康
4	相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション
5	相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾
6	もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則
7	もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展、失恋
8	みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力
9	みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力
10	見えない情報圧力とはⅠ 消費行動
11	見えない情報圧力とはⅡ 群衆心理
12	ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存
13	ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ
14	小論文作成
15	小論文発表会・意見交流

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時、資料を配布する。	「本当にわかる心理学」植木理恵著 日本実業出版社 「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

ライフプランニング I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・川井健次・宇野木
広樹・村上幸生

実務経験

授業の概要

社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。

到達目標

- ①就職に対する心構えを早期に確立する。
- ②社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身につける。

事前事後学習

配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期		回	後期
1	履修指導	全体指導・ゼミ別指導	1	
2	学科ガイダンス	大学での学び方	2	
3	就職環境の変化	社会で必要とされる人材	3	
4	研修	キャリアデザイン (グループワーク)	4	
5			5	
6	研修	キャリアデザイン (グループワーク) 社会が求める人材って？	6	
7			7	
8	企業研究	業界・業種・職種	8	
9			9	
10	自己理解	自己分析	10	
11			11	
12	卒業生講和	私が選んだ道(仮題)	12	
13	進路相談	個別面談	13	
14			14	
15	交通安全講和		15	

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法		評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート		60%	プレゼンテーション	○
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		40%	教室外学習	○
その他			その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライフプランニングⅡ
資格等	

科目名

ライフプランニングⅡ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・川井健次・宇野木
広樹・村上幸生

実務経験

授業の概要

社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。

到達目標

- ①自分らしい生き方を考える。
- ②ビジネスマナーの実際を習得する。
- ③卒業後の進路(職業選択)を明確にする。

事前事後学習

配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション 後期オリエンテーション及び履修指導
2		2	人生設計 ファイナンシャルプランナー講和
3		3	
4		4	研修 ゼミ別に学園祭について話し合い
5		5	
6		6	研修 模擬試験
7		7	
8		8	ビジネスマナー メイク・ヘア
9		9	コミュニケーションスキル アサーション
10		10	
11		11	履歴書指導 個別指導
12		12	
13		13	エントリーの仕方
14		14	一般常識② 模擬試験
15		15	一般常識③ 模擬試験

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	60%	プレゼンテーション	○
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	○
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライフプランニング I
資格等	

科目名

ライフプランニングⅢ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・村上幸生

実務経験

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

1年次に身につけた知識や技術をもとに具体的に進路決定のために行動する。

事前事後学習

随時指示する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション 履修指導及び進路志望調査	1	
2	進路指導 全体指導 業種、職種などについて	2	
3	進路指導 全体指導 就活サイト登録など	3	
4	研修	4	キャリアデザイン (グループワーク)
5		5	
6	研修	6	キャリアデザイン (グループワーク)
7		7	
8	進路指導 全体指導 卒業生講和	8	
9	進路指導 全体指導 就職講和	9	
10	進路指導 ゼミ別に進路指導	10	
11	基礎学力向上 全体指導 就職模擬試験	11	
12	基礎学力向上 全体指導 適性検査	12	
13	基礎学力向上 全体指導 小論文指導	13	
14	進路指導 全体指導 就職活動状況調査	14	
15	進路指導 全体指導 夏季休暇の有効活用	15	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	70%	プレゼンテーション	○
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	○
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライフプランニングⅣ
資格等	

科目名

ライフプランニングⅣ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・村上幸生

実務経験

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

進路を決定し社会人になるための準備をする。

事前事後学習

随時指示する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション 後期オリエンテーション及び進路決定状況調査
2		2	進路指導 ゼミ別に進路指導
3		3	進路指導 ゼミ別に進路指導
4		4	学園祭について ゼミ別に学園祭について話し合い
5		5	進路指導 ゼミ別に進路指導
6		6	研修
7		7	研修
8		8	研修
9		9	研修
10		10	進路指導 ゼミ別に進路指導
11		11	進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応
12		12	進路状況確認と個別指導
13		13	個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得
14		14	個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得
15		15	進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	70%	プレゼンテーション	○
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	○
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライフプランニングⅢ
資格等	